



シーボルト校 研究紹介

Vol.7

長与町に立地する長崎県立大学シーボルト校。

すぐ近くの大学でどのような研究が行われているかをシリーズで紹介していきます。



SDGs、メディアと私たち

－国際社会学部 国際社会学科－

賈曦(ジャシ) 准教授

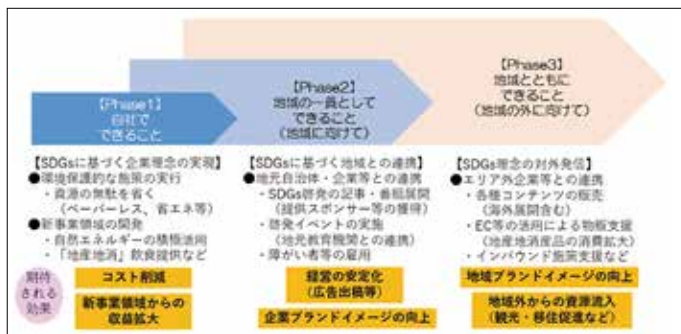
SDGsとは、2015年の国連サミットで採択された2030年までに持続可能な開発目標で、持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されています。では、SDGsと地方創生は、どんな関係があるのでしょうか？過疎化や高齢化に伴う人口減少や産業衰退など、様々な課題を抱えている地方においては、たくさんの分断が存在しており、地域問題はさらに複雑になっていく傾向もみられます。そこで「誰一人として取り残さない」ことを謳うSDGsのアプローチが役立ちます。個別の立場や組織を超えて、持続可能な地域の未来を実現するために、地域の実際に抱える問題を自ら考えて取り組んでいく地域版SDGsがまさに求められています。

ここ数年、様々な機関がSDGsの認知度調査を行っています。社会的な認知度がかかなり高まってきている認識があるかもしれませんが、2020年1月に世界経済フォーラムが行った調査結果として、SDGsを少しでも聞いたことがあるという人は、世界平均の74%ほどであるのに対し、日本はまだ50%前後に止まって、調査対象の28カ国の中に最下位となっています。世界の中では、まだまだ出遅れているようです。また、SDGsという言葉の認知率

が上がってきていても、SDGsの意識が日本社会に浸透してきたとはまだ言い難いです。特に、日本のSDGs報道は、大手新聞社がリードしているSDGs普及活動がビジネスに直結するようになって、企業の取り組みに注目する報道が多いですが、地域や人々へのフォーカスが少ないです。また、環境問題に注目するものが多いですが、貧困や不平等などを扱うものが少ないのが現状です。

そこで、地域独自の視点から地域の出来事や問題を扱うローカルメディアが、どのように地域に寄り添い特性を生かしてSDGs報道を取り組んでいくのか、ローカルメディアならではのできることを探ってみたいと思います。

限られた見方のなかのSDGs報道を超えて、新しい切り口でSDGsを報道することにより、SDGsへ向けた情報発信が新しい形で展開していくことができると考えております。授業でも、国際社会の新しい動きを紹介すると同時に、SDGsを実現するために、一人一人できることなどを考え、そのために、どのような情報発信が必要なのか、また、関連記事と一緒に読んで、SDGsと自分の生活にひきつけて考えています。皆さんも一緒に考えてみませんか？



SDGs理念とローカルメディア自身の位置づけ



ゼミの様子です♪

	国名	聞いたことがある	よく知っている
	世界平均	74%	26%
1	トルコ	92%	53%
2	中国	90%	52%
3	インド	89%	55%
4	ペルー	87%	37%
⋮			
25	カナダ	51%	11%
26	アメリカ	50%	20%
27	イギリス	49%	13%
28	日本	49%	8%

SDGsジャーナルHPから引用

<https://sdgs-support.or.jp/journal/awareness-of-sdgs/>